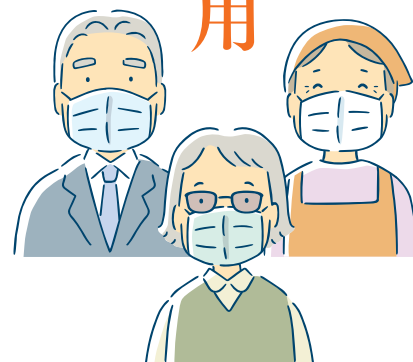




コロナ禍と シニア人材の雇用

安藤孝敏
【あんどう たかとし】
横浜国立大学 教授



バйдが生じる可能性があると考えられます。このように、シニア人材の多くは感染症の流行が雇用にもたらす影響について、ポジティブとネガティブの両方の側面で影響があると考えられています。

リスキリングの取り組み

セカンド・キャリアを見据えて具体的な準備（資格取得・講習会への参加・学び直し等）をしたシニア人材は3割程度という結果でした。学び直しやリスキリングが注目される中、事前の準備が現実にはあまり役に立っていないのか、力を入れるべき部分が違っているのかなど、詳細に検討することも必要であろう。

- 1 厚生労働省 2020 新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査の結果概要 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15766.html
- 2 特定非営利活動法人YUVEC 2022 「シニア雇用ならびにシニアの働き方に関するアンケート調査の結果報告：2021年度版」 <https://www.yuvec.org/news/mada-dekiru-hito/2022/03/29/7215/>

コロナ禍における不安

新型コロナウイルス感染症は、三密の防止、行動制限など、私たちの生活のさまざまな側面に影響を与えています。厚生労働省が2020年9月に実施したコロナ禍によるメンタルヘルスに関する調査^{●1}では、2020年2月～9月のいずれの時期も、半数程度の人が何らかの不安を感じており、自分や家族の感染への不安が最も多くなっていました。また、「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」の人は、すべての時期で「自分や家族の仕事や収入に関する不安」の割合が高くなっていました。また、困ったことやストレスに感じたこととして、「仕事の見通しが不安定なこと」「経済的な苦しさが増したこと」などがありました。

コロナ禍における シニア人材の雇用

シニア人材は新型コロナウイルス感染症の流行が就労や雇用にもたらす影響について、どのようにとらえているのでしょうか。ここでは、2021年に特定非営利活動法人YUVECが実施したシニアの働き方に関するアンケート調査^{●2}から、シニア人材の雇用に与える影響をみてみます。

シニア人材の回答者のうち、約6割が感染症の流行に伴うテレワークの導入・促進がシニア雇用に有利に働くかと考えていました。また、時差勤務の導入やコミュニケーションが対面を前提としなくなったことについても、シニア雇用に有利に働くと考えていた回答者がおよそ4割を占めており、何らかの形で感染症の流行がシニア雇用を促進していると考えている回答者の割合は9割を超えていました。その一方で、テレワークの促進にともなうICT環境の複雑化のほか、求人の減少や感染症への懸念といった要因をネガティブにとらえる回答者もみられ、感染症の流行がシニア人材の雇用を阻害していると考えている回答者の割合も9割強と非常に高くなっていました。中でも、IT環境についていけないと感じているシニアは4割程度みられることから、今後シニア人材の中でもデジタル・ディ

老年学コミュニケーションペーパー

ジェロントロジー【老年学】とは、高齢者の生活にかかわる問題を解明し、

2022 no. 013

より良い高齢社会をデザインする科学です。
安藤研究室では、社会老年学、高齢者心理学、人と動物の関係学を中心に研究をしています。

横浜国立大学
安藤研究室



世代間交流がもたらす効果

わが国における世代間交流は、「地域に住む世代の異なる人々が相互協力のもとで交流を行う」という形を基本として、季節の節目を祝うイベントや文化継承の取り組みなどの場で様々に実践されてきました。世代間交流を促進すべきという声は以前からありましたが、近年では世代間交流がそれぞれの世代にもたらすポジティブな効果について、具体的なエビデンスを報告する研究も増えてきました。

例えば、糸井ら^{●1}は先行研究のレビューを行い、世代間交流がもたらす効果の例として相互理解の促進やウェルビーイングの向上、地域共生意識の高まりなどを挙げています。また藤原ら^{●2}は、世代間交流が当事者にポジティブな効果をもたら

すことはもちろん、その周囲の人々にも良い影響が波及することを示しています。

新型コロナウイルス感染症の流行と世代間交流

2020年1月以降、現在も世界的な流行が続く新型コロナウイルス感染症（以下、Covid-19）の流行をうけ、地域での世代間交流活動は大きく阻害されました。特に、祭事ははじめとする地域のイベントや昔遊びなどを交えた文化的交流、世代を超えて人々が集まるサロンといった「他者との対面接触」を前提とした世代間交流は、活動に使用する会場の利用制限を受けて規模を縮小、あるいは自粛せざるを得ない状況が続いています。また、活動中断の長期化による当事者の活動継続意志の低下も懸念されます。

加えてCovid-19の流行は、外出自粛による感染症予防を推進するほど、閉じこもりや孤立による心身の健康への悪影響が増大するパラドックスを生じさせているとの指摘^{●3}があります。特に、世代間交流の主たる担い手となる高齢者にとっては、活動量の低下による心身機能

低下リスクの増大や、社会的孤立による生活の質および健康への悪影響が懸念されるなど、その影響はより大きいと考えられます。

「ニューノーマル時代」の世代間交流

Covid-19の終息が見通せない状況が続く中、いわゆる「ニューノーマル」に順応する形での世代間交流のあり方が様々に模索されています。三密を避ける取り組みや自身の体調管理、マスクや消毒といった感染症対策の徹底はもちろん、13歳～69歳までの各階層でインターネット利用率が9割を超える^{●4}中、オンライン会議ソフト等のICTを活用した世代間交流の試みも浸透しはじめています。「ニューノーマル」に順応する形での世代間交流に関する報告はまだ乏しく、その取り組みの評価は、今後徐々に進んでいくことでしょう。他方、ICTの活用を前提とする地域交流が新たな情報格差（デジタルディバイド）を生む懸念もあり、全世代へのICT教育推進の重要性も今後さらに高まると考えられます。



高橋知也
（たかはし・ともや）
東京都健康長寿医療センター研究所・研究員

コロナ禍における世代間交流の「ニューノーマル」



- 1 糸井和佳 他（2012）地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムに関する効果的な介入と効果——文献レビュー——日本地域看護学会誌、15(1)、33-44
- 2 藤原佳典 他（2010）高齢者による学校支援ボランティア活動の保護者への波及効果 世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム“REPRINTS”から 日本公衆衛生雑誌、57(6)、458-466

- 3 Smith ML et al. (2020) Combatting Social Isolation Among Older Adults in a Time of Physical Distancing: The COVID-19 Social Connectivity Paradox. *Frontiers in Public Health* 8:403.
- 4 総務省（2020）令和2年版情報通信白書、日経印刷株式会社



『ドライブ・マイ・カー』

横浜国立大学大学院・
環境情報研究院・非常勤教員

木村由香【きむら・ゆか】

このコーナーでは、シニア層と呼ばれる世代が実りある時間を過ごすヒントになる映画を、勝手に「終活映画」としてご紹介しています。今回は、『ドライブ・マイ・カー』をご紹介します。村上春樹の短編小説を原作としたこの映画は、米アカデミー賞国際長編映画賞をはじめ、様々な賞を受賞しています。他人とわかり合うということに対して、また大切な人を亡くした苦しみと葛藤に対して、人はどう向き合うのか。感じさせる映画です。

あらすじ

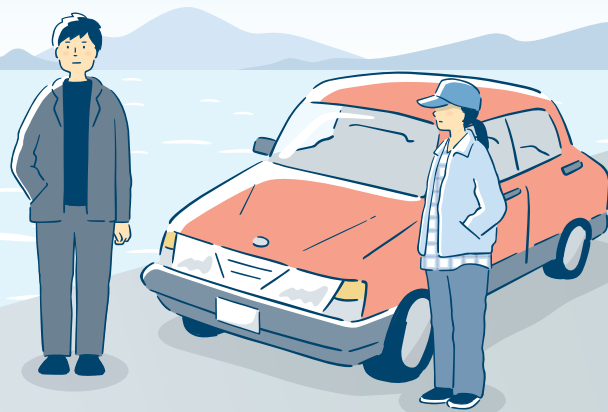
家福悠介（西島秀俊）は、舞台俳優であり、優秀な演出家。妻の音（霧島れいか）もまた脚本家として成功しており、二人は仲睦まじい理想的な夫婦に見えます。二人にはかつて一人娘がいましたが、幼い頃に肺炎で亡くしていました。それ以降、音はある秘密を抱き、家福はそれを知りながらも見ぬふりを続ける、そんな日々を重ねていたのです。ある日、外出前の家福に音と言います。「帰ってきたら話がある」。話し合いを恐れるように遅く帰宅した家福は、リビングに倒れていた音を発見します。彼女はそのまま他界しました。

2年後、家福は、広島で行われる国際演劇祭に『ワーニャ伯父さん』の演出を担当することとなりました。そこで悠介のドライバーとして雇われた渡利みさき（三浦透子）と出会います。当初、若い女性であるみさきに愛車を運転されることを嫌った家福でしたが、彼女の見事な運転に、そして無口ながら物事を見据える力のある彼女に、安心感を抱くようになります。一方、舞台のオーディションには、亡くなった音の秘密に関わる、若き俳優の高槻耕史（岡田将生）が応募していました。

わかりあうために必要なこと

家福は、妻の音が抱えたある秘密について、深く傷ついていました。ですが、それについて妻と話そうとはせず避けていました。家福と音はたしかに愛し合っていましたが、反面、家福は今の生活を、今の状態が崩れることを恐れ、音と対話することを避けていたのです。そして音の死により、音と分かり合う機会は永遠に失われてしまいました。

親しい相手でも、相手の本当の考え、思いを伺い知るのとは不可能です。家福には、妻の音には、覗き込んでも見通せない深い闇があると感じていました。ですが、そんな家福に対



して、高槻は言います。人の心などわからないと。人を知るためには、自分の中をひたすら見つめるしかない。

家福はその後、みさきとのやり取りの中で、自分は正しく傷つくべきであったと後悔します。妻の秘密に傷つき、見て見ぬ振りをした家福。だがそうではなく、きちんと傷つき、相手とぶつかるべきだったと。自分を欺いてうわべの平穏を繕い続けた彼は、だからこそ音のことがわからなかった、そんな自分の行動が音を失うことになったと涙します。

自分に目を向ける終活

終活は、自らの過去を見つめ、これからどう生きるのか、そして自分の周りの人に何を伝え何を残すのか、それらを考えることです。終活はまた、周囲の人に面倒をかけたくないとの動機から取り組む人も多いでしょう。映画には、他人と分かり合うために、自らを見つめることが大切だと言う強いメッセージが込められていました。終活においても、周りの人たちを思えばこそ、自らを今一度見つめる必要があるのかもしれません。

『ドライブ・マイ・カー』
2021年製作／179分／PG12／日本
配給：ビターズ・エンド

コロナ禍において

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大を受けて、医療機関や施設では感染予防対策として家族等の面会を原則禁止もしくは制限がされています。入院中や入所中の高齢者にとって、家族との面会は大事なコミュニケーションの場でしたが、対面できない淋しさや辛さを感じ、お互いの様子がよくわからないと困惑することが続いています。中には急変してしまい、お別れをすることができないまま、最期を迎えることになってしまった痛ましいケースも発生しています。このような状況で自宅に帰りたい、自宅で最期を迎えさせてあげたいとの声が増えています。^{●1}

最期を迎えたい場所の希望

2017年、20～79歳までの全国の男女1000人を対象にもし余命が1～2カ月に限られていたら、自宅で最期を過ごしたいと思いますかという意識調査^{●2}が行われました。それによると、図1のように全体の7割以上の方が自宅で過ごしたいと答えましたが、一方で、実現は難しいと思うと回答した人が4割に上っています。

誰も住み慣れた自宅で過ごしたいとの思いが強くとはいえ、実現することが難しいと考えている人が多いことが明らかになっています。これは病気になる、介護が必要になったら、

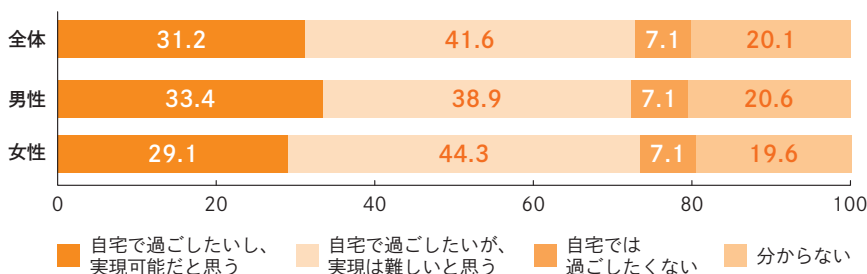
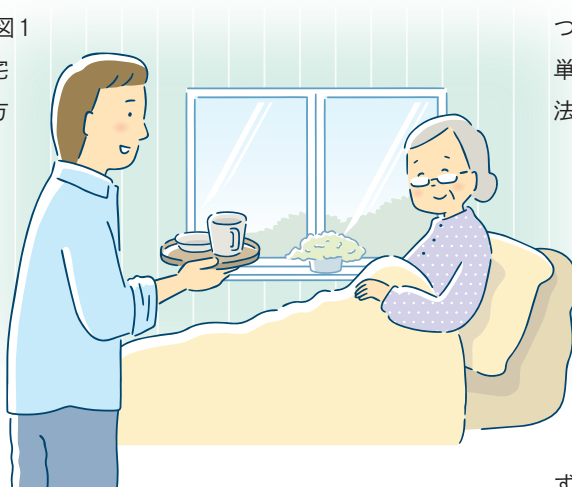


図1 余命が限られている場合、自宅で過ごしたい人の割合 (一部改変)



池水亜由美
〔いけみず・あゆみ〕
横浜国立大学大学院・
環境情報学院・博士課程後期

自宅で最期を迎える

家族や人様に迷惑をかけられないという高齢者の意識や家族の介護をする力、地域が持つ医療や介護の支える力のばらつきが影響しています。また、病院で亡くなるのが7割を超える日本の現状では、病院だったら助かるかもしれないという思いや死にむかっていくプロセスを経験したことがない人が多いため、不安につながっていることが原因と考えられます。

自宅で最期を迎えるということ

そもそも自宅で最期を迎えること、自宅での看取りができることを知らない人も多いことでしょう。高齢者が「子どもや孫に会いたい」、「かわいがっているペットと過ごしたい」、「亡くなった家族が見守ってくれる仏壇に手をあわせたい」等々、大事にしている価値観は多種多様にあります。その人らしく過ごせるために大事にしていること、その人らしさを時々聞いたり、話したりしながら、いざという時にその思いをかなえるために自宅で最期を迎えることを選択肢の一つに加えることができます。もちろん簡単なことではありませんが、具体的な方法について、医療機関にいる相談員（ソーシャルワーカー）やお住まいの地域にある地域包括支援センターで相談ができ、自宅での看取りの経験がある医療や介護の支援につないでもらうことが可能です。

結果として、自宅で最期を迎えることができても、できなくても、考えて選択したプロセスは悔いを残さず、意味のあるものに変えられれます。

●1 「家に連れて帰りたい」 コロナ禍で在宅での看取りに注目 産経ニュース 2021.9.2 <https://www.sankei.com/article/20210902-5WYJNUV5AFPBLJQF3PCOQHQT4/>

●2 「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査 2018」公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 <https://www.hospat.org/research1-4.html>